

## つながる力

昨年は大きな災害に見舞われた年でした。地球規模の気候変動の故でしょうか、自然の猛威の前に深刻な被害が各地にもたらされました。被害を受けた方のことを思うと胸が痛みます。いつでもどこにでも災害は起きうると誰もが思ったはずです。

過日「大災害に備えて～体験から学ぶ～」というシンポジウムがありました（東京生活サポート協会など4団体共催、2020年2月11日）。その中で、台風15号（2019年9月9日）の直撃を受けた嬉泉交流センター袖ヶ浦の報告がありました。最大の問題は送電線が倒れて電力を失ったこと。停電後は施設の非常用発電設備を使うものの、それが停止するなど長期にわたる供給には限界があった。エアコン・冷蔵庫などが使えず、ご利用者の不安や不調の中で、いつ電気が復旧するのかが分からず困惑が続くという厳しい状況に。北陸電力から電力供給車の派遣がありそれで9月20日の電力復旧までを何とかしのいだということでした。

昨年武蔵野市では総合防災訓練が行われ、その一環で桜堤ケアハウスが活用されました（10月27日）。また大野田防災の会の取り組みとつなげて障害者総合センターでは避難所開設訓練を行いました（11月30日）。シンポジウムでは東日本大震災（2011年3月11日）で大きな被害を受けた仙台つどいの家からは、「つながる力」で何とか乗り切れた。すべてが初めての経験という中で多くの方々とのつながりによって今日があると感謝をこめでの報告もありました。

「つながる力」は日頃の関係性から生まれるものです。それがいかに大事か、私も同感です。私どもの事業は市内各地で展開されています。何かあった時に頼りになる、そういう存在をめざしたいと思います。

令和2年5月 安藤 真洋